

ネパール政治ニュース (16年9月) ヘッドライン

政 治	
内政	<p>(1) 1日、ダハール首相は、バンダリ大統領と会談し、同大統領に対して最近のネパール内政についてブリーフを行った。</p> <p>(2) 2日、ネパール政府は、9月19日を憲法公布の記念日として、様々なプログラムを準備しているが、マデシ系政党は、同記念日をブラック・デイとすることに決定した。</p> <p>(3) 5日、オリ前首相は、外国からの圧力によって憲法を改正するべきではないと述べた。</p> <p>(4) 6日、地方自治体再編成委員会 (LLRC) は、現在の連邦制において地方自治体の数と境界線を再編成することに関して、16郡からフィードバックを得た。ダハール首相は10月半ばまでに、最終報告書を提出するように同委員会に指示しているが、同委員会関係者は、10月半ばまでの提出は不可能であると述べた。</p> <p>(5) 8日、主要与党のネパール・コンGRESS (NC) とマオイスト・センター (MC) は、憲法改正に関する共通の立場を形成することができておらず、憲法改正が長引く恐れがある旨報じられた。</p> <p>(6) 8日、外務大臣経験者や国際関係の専門家は、ダハール首相に対し、15日から予定されているインド訪問の前に憲法改正するように強く促した。</p> <p>(7) 8日、ダハール首相は、マデシ系政党の要求に対処して、憲法改正を行うことを繰り返し述べた。</p> <p>(8) 19日、憲法の公布から一年となったことを記念して各地で祝賀プログラムが開催された。</p> <p>(9) 20日、マデシ、ジャナジャティ、タルー及びいくつかの郡において憲法記念日をブラック・デイとしたため、同記念日を国内では複雑な感情で迎えた。</p> <p>(10) 20日、ダハール首相が国連総会出席のため予定していた訪米を中止したことについて、マデシ系政党は、憲法改正を早期に求めていたため、歓迎した。</p> <p>(11) 21日、ダハール首相が自身のインド訪問について大成功であったとMC内で発言したところ、党内から「過信」であり、インドのネパールに対するスタンスは何も変わっていないと批判された。</p> <p>(12) 26日、主要政党のNC、UML、MCは、現存する「Ilaka」をベースに地方自治体の数を決めることで合意した。</p> <p>(13) 28日、マデシ系政党は、ダハール首相が言行不一致であるとして、マデシ問題を解決させる政府の誠意が感じられないと論じた。</p> <p>(14) 28日、国民民主党ネパール (Rastriya Prajatantra Party-Nepal)</p>

	<p>とマデシ系政党は、地方自治体を「Ilaka」をベースに決定するとの主要政党の合意に対して批判した。</p> <p>(15) 28日、ランジット・ラエ駐ネパール・インド大使は、ムスタン郡のコララ国境ポイントを視察した。去年の国境封鎖時、オリ前首相は、同国境ポイントを開くように中国に対して働きかけていた。</p>
<p>外交</p>	<p>(1) 1日、岸外務副大臣及びダハール首相出席の下、ネパール政府が主催する日・ネパール外交関係樹立60周年記念式典がハイヤット・リージェンシー・ホテルにて行われた。</p> <p>(2) 2日、ネパール政府は、駐インド大使としてディープ・クマル・ウパダエ、駐中国大使としてリラ・マニ・ポウデルを指名した。</p> <p>(3) 9日、ドゥルガ・バハドゥル・スベディ外務省局長が駐英大使に任命された。</p> <p>(4) 11日、ダハール首相のインド訪問に先立ち、マハト外相は11日、インドへ訪問した。スワラジ外相等、インドの要人と会談し、ダハール首相インド訪問時のアジェンダについて協議する予定。</p> <p>(5) 13日、マハト外相とスワラジ・インド外相との会談で、ムカジー大統領が11月3日からネパールを訪問することを確認した。</p> <p>(6) 14日、ダハール首相のインド訪問に関して、警備員、ジャーナリスト、ビジネスマン等を含めて合計125人が同行する予定。</p> <p>(7) 14日、ダハール首相は、立法議会で演説をし、15日から予定されているインド訪問では、過去に合意された事項の実施について重点的に協議すると述べた。</p> <p>(8) 15日、ダハール首相はインドを訪問した。同首相は、インド訪問の主目的をネパール・インド間の信頼関係構築であると述べた。</p> <p>(9) 16日、ネパール・インド両国は共同声明を発表した。</p> <p>(10) 18日、ダハール首相は、国連総会出席のために予定していた訪米を取りやめた。</p>